

成果の説明書

(氏名) 小林 徹	(学部) 経済学部
1 重要事項	
【研究活動】	
A：昨年度より継続研究している "Labor Market Discrimination depending on Dialect and Hometown; Evidence from Japanese Labor Market Composed by Almost Same Race People" を専門誌へ投稿し受理された。Dialectologia, No.27 (July 2021).に掲載予定。	
B：昨年度より継続研究をしている慶應義塾大学の山本教授との共著研究 "Effect of routine-biased technological change on the wage structure in Japan: Importance of job tasks in wage determination" を完成させた。専門誌に掲載見込み。	
C：研究協力者として参加している「特別推進研究」プロジェクト「長寿社会における世代間移転と経済格差：パネルデータによる政策評価分析」において高知大学の野崎准教授と以下の共同研究を実施。 「高賃金の抽象タスクへの従事機会の不均等と男女間賃金格差」 2019年12月3日に第19回パネル調査・カンファレンスにて研究報告を行い、Panel Data Research Center, Keio University PDRC Discussion Paper Series で発表予定。	
【教育活動】	
A：労働経済学の講義では大森義明『労働経済学』日本評論社と小崎敏男・牧野文夫・吉田 良生『キャリアと労働の経済学』日本評論社、Borjas "Labor Economics"から講義内容を構成し、主に板書をメインに説明した。 前・後期それぞれで2回の小テストを実施した。これに加え、抜き打ちで「レポートテスト」や練習問題を行った。	
B：応用計量経済学では、連合総合生活開発研究所「勤労者の仕事と暮らしについてのアンケート2015」の個票データを東京大学社会科学研究所データアーカイブより教育目的で借り受け、演習形式で計量分析手法を指導した。 前半では主にエクセルを使った企業内でよく使用するデータ分析手法を、後半部でマイクロ計量経済分析の細かな方法を指導した。	
C：演習では、演習Ⅱにて卒業論文指導を行った。14本の論文が完成し、「卒業論文集」として製本し配布した。演習Ⅰではグループ研究を実施した。社会実験や計量分析などの手法に分かれて、グループ研究成果の報告会を実施した。基礎演習では、AIの労働市場への影響に関する書籍や労働経済研究の論文を輪読した。	
2 その他の事項	
A：みずほ情報総研「EBPM推進事業」に参画 B：ISFJ 日本学生政策会議におけるプレゼン審査、コメンテーター	
3 次年度以降の計画・抱負	
昨年度まで複数年で継続してきた研究については成果物に至る目処が立った。そこ	

で次年度から新たな研究プロジェクトとして、新技術の雇用への影響に関する研究をメインに実施する。そこでは2点の計量分析を計画しており、第1には「統計などのデータ処理・分析のスキルの所得上昇効果の検証」を実施し、2020年度の労務学会にて報告を予定している。第2には、GRITや推論力といった新たな能力概念を指標化し、その水準と賃金との関係性を計量分析する。またこれら研究成果は、慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センターやフランスの社会科学高等研究院が主催する研究報告の場にて報告する予定である。

他方で、昨年度に実施した【研究活動】Cの成果については、英文に書き直した上で、海外の学術誌に投稿を予定している。